

桃源文化会館開館40周年記念事業  
南アルプス市民ミュージカル

いのちの水と  
夜の神

2025 1/19 日  
Sun

【午前の部】開場 10:30 開演 11:00 【午後の部】開場 14:00 開演 14:30

桃源文化会館 桃源ホール

【入場料】一般 1,800 円 / 高校生以下 1,300 円 <全席自由>

※車いす席をご利用の方は、事前にお問い合わせください

【チケット発売】

2024年10月19日(土) 10:00～ ※発売日は窓口販売を優先させていただきます

【チケット販売所】

桃源文化会館 055-284-3411 / YCC 県民文化ホール 055-228-9131

東京エレクトロン 韮崎文化ホール 0551-20-1155 / はくばく文化ホール 0556-22-8811

主催：一般財団法人桃源文化振興協会

後援：南アルプス市・南アルプス市教育委員会

テレビ山梨・山梨放送・山梨日日新聞社・エフエム富士・エフエム甲府

資料提供：南アルプス市教育委員会文化財課



詳しくは裏面をご覧ください▶▶▶▶▶

Togen Hall 桃源文化会館 055-284-3411  
MINAMI-ALPS CITY 〒400-0222 山梨県南アルプス市飯野 2971



こちらもフォローをお願いします!!



# いのちの水と夜叉の神

その昔、水出川（みでいがわ）と呼ばれる川の上流にある山には、夜叉という名の恐ろしい祟り神が住んでいた。

夜叉の神の祟りを恐れる人々は、川の上流にある峠に石の祠を建てて手厚く祀り、その峠を「夜叉神峠」と名付けて、ことあるごとに祈りを捧げたという。

西暦 2024 年、高尾穂見神社の祭礼の夜、知恵と遙は提灯を片手に山道を登っていた。穂見神社の夜祭に行くための提灯行列のツアーに参加したのだ。

だが、ふとしたはずみに行列からはぐれてしまった二人は、山道の途中で道に迷ってしまう。やっと、少しひらけた場所に出ると、10 人ほどの人々が不思議な装束を身にまとい、歌いながら踊っている。だが、見渡してみても神社の建物もなければ、参拝客の姿もない。どうやら、夜祭の御神楽ではないようだ。二人の姿を見つけたその人々は、怒鳴り声を発しながら、一斉に二人の周りを取り囲んだ。その手には、槍のようなものが握られている。一体何が起こったのか。

その時、突然雷鳴がとどろき、激しい稲光とともに、滝のような雨が一気に人々を飲み込んだ。知恵と遙は人々に捕らえられ、恐怖の一夜を過ごす。朝になってみて、はじめて自分たちの置かれた状況に二人は気がついた。そこは、現代ではなかった。縄文系の人々と、弥生系の人々が共存する太古の世界だった。二人は山中で迷っただけでなく、時の狭間に迷い込んだのだ。山麓の台地に住み、狩猟生活を送る縄文系の民と、平野に田畑を作って生活する弥生系の民は、互いに反目しあいながら暮らしていた。あくまで自然と共存することを願う縄文系の民。土地を切り開いて繁栄しようとする弥生系の民。ふたつの民は、よその国から来たと思われる知恵と遙が現れたことをきっかけに、その対立を激化させていく。そんな人間達の争いに怒ったのだろうか、夜叉と呼ばれる恐ろしい祟り神が、知恵と遙の目の前に姿を現す。

だが、不思議なことに、その祟り神の姿は・・・少女に見えた。

迷い込んだ時の狭間に

一人の少女が待っていた



河住 咲実



洲貝 有璃



篠木 里美



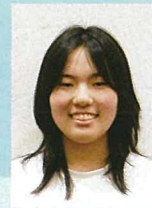
前橋 真子



永坂 蓮華



渡邊 真由



篠木 晴美



洲貝 菜璃



白濱 月央



大久保 晃太



洲貝 朱璃



堀部 珠生



向井 芽衣



佐野 由奈



依田 こなつ



秋山 凜



小林 愛佳



中込 琴音



横内 怜奈



秋山 惟風



杉山 航



佐野 涼花



依田 あすか



佐々木 望微



洲貝 麻里



山本 恵子



深澤 桂子



金川 八千代

脚本・演出: 齋藤 浩樹 / 音楽: 石川 洋光 / 振付・演出助手: 高野 りさ子 / 美術・衣装: 加藤 藍子  
音響: 秋山 健二 / 照明: 秋山 啓 / ヘア・メイク: 加藤 桂子 / 歌唱指導: 望月 理恵  
製作協力: Walnutbox Musical / 企画・製作: 一般財団法人桃源文化振興協会

